

平成 30 年度第 4 回石狩市行政改革懇話会

日 時：平成 31 年 3 月 11 日（月）10：00～

場 所：石狩市役所 3 階 庁議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	角川 幸治	○	(事務局) 総務部長	及川 浩史
副会長	飯尾亜紀仁	○	(事務局) 総務部情報政策課長	森本 栄樹
委員	能村久美子	○	(事務局) 総務部行政改革担当主査	鎌田 晶彦
委員	松谷 初代	○		
委員	上木 智子	○		
委員	運上 昌洋	○		
委員	東 幸子	○		
委員	本間 貴士	欠		

傍聴人：0 名

【事務局：森本課長】

皆様お揃いですので、只今から平成 30 年度第 4 回行政改革懇話会を開会いたします。本日は大変お忙しいところお集まり頂きまして、ありがとうございます。本日は、本間委員が所用のため欠席という報告を受けていますことを、この場で報告させていただきます。では、角川会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

【角川会長】

おはようございます。年度末ということで大変お忙しい中、第 4 回の懇話会にお集まり頂きまして、ありがとうございます。前回第 3 回は、10 月 25 日でしたね。今日が本年度最終の第 4 回ということで、本年度は少し回数的に少ないのですが、その分中身の濃い懇話会が開催出来たのかな、という風に思っております。

本日は、本年度総まとめということになりますので、皆さん方、言い残し、思い残しの無いように内容を見て頂きまして、この後皆さんの意見を集約して、最終的な形にしていきたいと思っております。細かいことも含めて、是非ご指摘頂きまして、より良い内容にしていきたいと思っております。それと今日は、3 月 11 日ということで大震災から 8 年が経ったということでもあります。亡くなられた方々へ、改めてご冥福をお祈りいたします。8 年前ということで、思い起こしてみますと私事ではありますが、商工会議所青年部の会員

として、震災直後から支援活動の方を手伝っていたという記憶もございます。皆さん方も、それぞれの思いがあると思います。まだまだ復興の方も完全な訳ではありません。未だに仮設住宅等で不自由な暮らしをされている方々が、大勢いらっしゃるということで、その方々の苦労も考えながら、何か我々で出来ることは、更に続けていきたいと考えております。また、この行政改革懇話会というのは、市長の諮問に応えるという役割もございます。皆さん方もご承知かと思いますが、今回、5期20年勤められた田岡市長が引退されるということになって、新しい市長が誕生することになるかと思っておりますので、その辺も考え合わせてですね、慎重審議頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【事務局：森本課長】

どうもありがとうございました。では、この後の進行につきましては、会長の方で引き続きよろしくお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

【角川会長】

それでは本日の議題が、行政改革2021大綱に基づきまして作成される実施計画の平成31年度版の原案に対する審議ということになっていきます。この実施計画は、行政を取り巻く状況変化に対応する様に毎年度見直して策定しております。今回は、次年度である平成31年度版の計画ということになります。全員資料の方は郵送等されておりますが、審議に入る前に、改めて内容につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局：鎌田】

委員のみなさま本日はお疲れ様です。私から事前に配付いたしました資料の説明を申し上げます。

本実施計画は、行政改革大綱2021に掲げた目指す姿の具現化を図るため策定するものであり、昨今の行政を取り巻く環境の変化に柔軟に対応するため、行政改革の方向性とも照らし合わせながら毎年度策定することとしております。以上を踏まえて平成31年度実施計画案を作成しましたので、配付の資料に基づいてポイントを説明申し上げます。

まず、平成31年度実施計画に新たに盛り込まれる事業についてです。

ICTの効果的な活用の取り組みとして、「環境情報等データベース化・オープンデータ化事業」です。所管は環境政策課です。本事業は、「風力発電ゾーニング検討事業」及び「自然環境調査事業」において収集した市域における動植物情報のデータベース化、また環境情報等のオープンデータ化を行い、地理情報システム機能や調査アプリ等の活用を通じ市民サービスの向上・利便性を図るものです。

続きまして、②になりますが、平成 30 年度で完結し平成 31 年度計画に搭載されない事業であります。

1 つは、公の施設のアウトソーシングの推進①です。平成 29 年度から実施しました「石狩浜海浜植物保護センター」の運營業務委託の効果・検証を行い指定管理者制度による管理運営を図る取り組みとして、今年度は、施設の老朽化が深刻化する中で、施設管理を業務に含む指定管理について慎重に検討したいとの意向が業務委託受託者から示されたこと。さらに他施設との連携・統合など、今後の施設のあり方に関する新たな方向性が議論され始めたことから、当面の間、引き続き業務委託による運営を行うものであります。

次に公の施設のアウトソーシングの推進②ですが、「学び交流センター」を管理委託方式から NPO 法人を指定管理者とした運営とすることで、NPO 法人の主体性を活かした市民文化・芸術活動の活性化を図る取り組みとして今年度は、指定管理に向け関係条例等の整備を行い、さらに次年度予定していました指定管理者の指定を前倒しで行った結果、平成 31 年度より運営を開始いたします。

次に支援業務の体制構築ですが、定年退職した職員を再任用し、職員が培った能力や経験を活かして現役職員をサポートする体制を構築しております。

続いて、平成 31 年度から統合する事業であります。

臨時職員及び非常勤職員の任用等の在り方の検討ですが、平成 32 年度の会計年度任用職員の制度運用開始に併せて「活力ある組織づくり」の検討事項の一つである「臨時非常勤を含めた人員配置のあり方の研究」と一体となって制度構築の検討を進めるため

平成 31 年度より 11 ページにあります「活力ある組織づくりへの取り組み」と統合するものであります。

続いて、平成 30 年度に事業を検討し平成 31 年度実施計画に引き続き掲載する事業であります。

地域自治システムの構築については、平成 30 年度、実証事業の検証作業及び今後の地域自治システムの方向性を検討する取り組みとなっており、3 年間のモデル事業の検証結果を踏まえて平成 31 年度は、引き続きモデル地区において課題解決に向けた実証事業に取り組むとともに、他地域への展開を検討する予定であります。

そのほか、既存の事業においても、平成 31 年度の取り組みの見通しがたっているものについて可能な限り、時点修正し取り組み内容を朱書きにしています。

続きまして、配付資料には掲載しておりませんが、10 月に本懇話会よりいただきました「平成 31 年度の取り組みについての意見書」に関連する、時点での市の施策についてお知らせいたします。

“個別事項 1”の「市民協働」における市民が主体となった地域課題を解決する試みの拡がりに関連する情報としまして、先ほどお伝えしました旧石狩市域での「地域自治システム」継続実施事業のほか、厚田区で平成 29 年度より「住民どうしの新たな支え

あいのシステムの構築」の取り組みが進められておりますが、平成 31 年度より浜益区で新たな取り組みとして外部人材を招へいし、地域関係団体を構成員とする浜益観光まちづくり推進協議会がその外部人材マネージャーの指導助言を受けながら地域観光ポータルサイトの運営や観光プログラムを造成・販売をし、地域の交流人口・関係人口の拡大を図る事業を進める予定となっています。市域全体に市民協働の動きが拡がりを見せている状況となっております。

“個別事項 3” の災害時の情報を受け取る手段に関しまして、これまでも「石狩市公式 Twitter」で災害時や災害発生のおそれがある時、情報発信しております。この Twitter の紹介は、すでに石狩市地域防災計画へ掲載し周知を図っておりますが今後は、地域防災計画を見直し、より多くの方へ活用いただけるよう積極的な情報提供に向けた検討を進めていく状況であります。

“個別事項 5” の役目を終えた公共施設の利活用に関しまして、市内で今後閉校・閉園となる施設の土地・建物について、地域貢献や財政貢献、政策推進への貢献など、多角的な視点による検討を行うため民間事業者からの土地・建物の活用アイデアを調査しますサウンディング型市場調査を今年の 1 月から実施しております。

今回の対象施設は、望来小学校、厚田小学校、聚富小中学校、厚田保育園、聚富保育園となっております。

【角川会長】

ありがとうございます。今の最後の話は、情報提供ということでのご説明ですね。まず、それを含めて A 4 版の概要説明資料と、情報提供に関して質問、確認はありますか？質問なしでよろしいですか？

質問なしということで、中身の審議の方に入ります。ご意見のある方は、発言をお願いします。実施計画全体でも、もちろん構いませんし、赤字の部分が、今回変更となっている箇所となります。それを踏まえて、ご意見のある方はお願いいたします。31 年度版に関しては、ご意見があれば集約して、それを反映させて行政改革推進本部会議で決定いたします。本部会議は 3 月 19 日開催ですので、時間はそう無いものですから、是非ご意見お願いいたします。

【能村委員】

まず概要説明資料として追加事業や、完結した事業というのを、まとめて頂いたことが、とても分かりやすく良かったですと思います。そしてその中で追加される事業の環境のオープンデータ化事業、とても良いな、と思いました。続いて掲載しない事業で、海浜植物保護センターの指定管理者に向けて協議を進めていたけれども、諸問題があった、指定管理者では無く、業務委託という形で続けるという解釈で良いですかね。

【事務局：鎌田】

そのとおりです。今も業務委託をしているのですが、その委託先の団体と協議を進めた結果、業務委託で続けるとなりました。

【能村委員】

きっと本来、一步進んだ形というのが、指定管理者というところで、目指していたと思うのですが、今回とても気付かされたのは、その仕事を受取る市民側というか、市民団体側では手に負えなかったり、それを受けてしまったら、後々大変になるっていう様なこともあるんだなっていうのを、このことで思いました。それを把握し、課題として話し合いを進めていくと、「後々こんな大変なことが判明した」という様なことが無くて良いんだな、という意味では、今回の踏みとどまるという事例が、とても良い事例として、ひとつ出来たんじゃないかな、と思いました。

あと、この環境情報のデータベース化に関しては、まさにこれから始まるということですが、いつもの様に毎年同じ取り組み内容を書くしかないという形なんでしょうけれども、仕方が無いんだらうなっていう思いですが、内部でやるのか、外部の人と手を組んでやるのかとか、先の様子が見える様な書き方だったら良いかな、と思いました。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。あと、いかがですかね？運上さんどうですか？

【運上委員】

内容的には、問題無いのかなと思います。能村さんがおっしゃった様に、まとめて頂いたことは、すごく分かりやすかったかなと思います。あとは、指定管理者については、能村さんと同じ様な意見で、難しい判断があったという色んな事例があっても良いのかなと思います。試してみてじゃないですが、色んな建物もありますし、今後、指定管理者なのか業務委託でやっていく上でも、一つの事例なのかなと思います。指定管理者も、上手く進めていく様な形が、し易さというか、分かり易さとか、ということも含めていくと、もう少し指定管理者の方も使える様になるのかな、とは思いますが。あとは特に無いです。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。それでは、松谷さんお願いします。

【松谷委員】

1 ページ目の「みんなで進める観光まちづくり」というところですが、平成 29、30 年ってどちらかというと、子どもに的を絞った様な事業をしてきたと思うんですよ

ね。で、それが平成 31 年は、子どもから、もっと広く市民へっていう風に、私には読み取れるのですが、そう変わったのは、子ども向けへの一定程度成果は挙げたので、こういう風に変えたのかどうかってところが、読んでいて不思議でした。というのは、小学校とかに色々行く機会が、別の活動であるんですけど、私達のまち、石狩市観光大使になろうとか、結構小学校の総合的な学習の中で、そういうこと取り上げている学校があって、そういったものを発表していたりして、私は、「こういった効果が学校にあがっているんだな」って喜んでいました。ただ、やっぱり私達のまち石狩市、大好きな石狩市、石狩市の良さを子ども達を知ること、自分達が調べていることが、とても効果があると思っているので、何かこういう風にこう、大きく変わっていますよね。30 年度、31 年度とでは。そこのところの変わった理由っていうのを教えて頂けたらと思いました。書き方が変わっただけなのか、子どもじゃなくて、もっと広げた方が良かったのか。

【事務局：森本課長】

松谷委員の、子どもから対象が変わったのでは無いか、という質問ですね、所管へ確認いたします。子ども向けの取り組みをやめて、大人にシフトするものか、もともと大人達のボランティアで取り組みを実施するという事は観光振興計画にも載っているものですから、所管へ確認させて頂かないと、間違えたお答えになってしまうと大変ですので。ただ、この計画を最初につくる時、子ども達をターゲットにし、それをきっかけに大人へも広がっていくだろうということでした。ですので恐らく、子ども達向けの取り組みを外すということでは無いと思っています。懇話会終了後に確認させて頂きたいと思っています。

【角川会長】

今の件は確認して、後でメール等でもよろしいですか？

【全会一致】

※後日、商工労働観光課へ子ども向け事業は継続することを確認し、その旨を報告。

【角川会長】

折角ですので、東さんいかがですか？

【東委員】

はい、前回忙しくて参加出来ず、申し訳無かったのですが、今ちょっと見せて頂いて思うのが「市民と協働のまちづくりの推進」ということで、地域おこし協力隊と

地域との協働の推進って取り組みに書いてありますが、旧石狩市域の協力隊はいらっしゃいますか？

厚田区と浜益区にいるということは、これは厚田区と浜益区の方と協働して推進しているっていう考え方で良いのですか？

【事務局：森本課長】

協力隊自体の仕組みが総務省の事業であって、コンセプトというのが都会、要するに都市部へ一極集中しているものを是正するため、都会にいる若者達を地方に分散させ、地域活動を担っていくなかで、その地域を知ってもらい将来的に定住していただき地域活性化につなげるという事業ですね。最初は当然、都会から地方ということになりますから、旧石狩は札幌という都市部に近いということで、基本的には厚田・浜益が中心ということから地域の意見を聞いて始まった事業だったんですよね。

【東委員】

どちらかというと、彼らが何をやっているか、というよりは、実際に定住したということが大事なんですね。国の施策としては、それが大事だとは思いますが、実際は、彼らが何をやるかが大事ですね。

【事務局：森本課長】

そうですね。ですので募集段階でテーマをしぼり募集をかけています。浜益区の当初であれば、カフェガルっていう食堂を手伝う為に来て下さいとか、そこで色々な地域の人達とコミュニケーションを取って、地域活動をしてもらって、定住してもらって、地域の活性化を図るという様な内容ですね。当然募集をかける段階で地域協議会へ諮ってコンセプトをつくり、募集かけ、活動後は地域での報告会を確か年何回か、1回か2回かやっております。

【東委員】

そういうのがまちづくりの推進という風に考えて良いですね。

【事務局：森本課長】

市民と地域協力隊の協働事業でまちづくりにつながるということで、実施計画に入れさせて頂いています。

【東委員】

分かりました。

【運上委員】

厚田・浜益以外の旧石狩市域で地域おこし協力隊を募集しないという理由は何かあるのでしょうか？どういう理由？以前、市企画課に1回話しをしたことがあって厚田・浜益であれば、どこからでも地域おこし協力隊の募集が出来、旧石狩市域の場合、大都市圏からの募集であれば問題無いと、総務省にも確認しました。やはり厚田・浜益も大事なのですが、旧石狩市域も地域おこし協力隊がいれば良いのではと思うところがあって、それで色々なメンバーと調べて、可能だということが分かり、それを企画課には一応ご提案したことがあります。出来れば旧石狩市域でも、地域おこし協力隊の募集をすると、1名でも2名でも良いんですけど、その後定住したという思いは、厚田・浜益よりし易いんじゃないかなと思って提案をしました。厚田・浜益という用語弊があり申し訳ないのですけれど、それも1つなかなと。

もし、そういう事例が出来れば、もっと定住し易いのかな、と思いまして提案をしたことあるんです。なので、もし今のご意見の中で、「何で無いんだろうか？」というような、厚田・浜益は募集しているけど、何で旧石狩市域が無いのだろう、という風に考えられている方もいらっしゃると思うので、もし市の見解が変わってくれば、面白いかなと。というか、旧石狩市域の人でも、この地区で地域おこし協力隊がいたら面白いよねっていう話が多く出ていますので、その辺をもう少し幅広く検討して頂けたら良いかなと。

【事務局：森本課長】

最終的に募集をかける時点で、何をこの方々にやっていただき、何を望むか？私自身、当初協力隊を入れる時に担当していたものですから、喜茂別町って最初に道内で実施したところで、10人ぐらい採用してですね、ちょうど役場へ行って、役場の人の話しも聞いて、隊員だった方にも直接お話しを聞いてですね。ラーメン屋経営していると方の話を聞いて、やはり行政の望むことと、協力隊の望むことって結構違うものがありますけれども、やはり共通して何を、行政も協力隊も含めて、何を望まれてきて、何をやらなきゃ駄目かっていうのは、やはり明確にした上で、制度を導入しなければ駄目だっていうことなんですよね。

旧石狩市域になると、花川地区が良いのか、例えば高岡とか生振とか、ちょっと人手が足りない地区でやるのかっていうコンセプトを持ってやらなければならないと思います。運上さんの意見は、企画課へ伝えこういう意見も懇話会で持っていますということで、旧石狩市域でもニーズがあるのであれば、何をやってもらうのかということで、人手が入ってきている部分もありますので。

【運上委員】

具体的に話しをしていて、花畔地区の農家さんとかも、正直、土地がどんどん空い

てきて、ただ人がいなくて荒れていくと。で、結局なかなか人手がないところで広げられない。で、隣の畑が荒地になっていくと、自分達のところにも影響があるというので、そこも借りる。でも、借りても植えるまでいなくて、耕して終わりとか。何かそんな様な状況もあって、地域おこし協力隊が良いかどうかは、別として、やっぱり花畔地区でも、すごく人材不足だったり、やっぱり農家さんであれば、定住してもらうことが出来るんじゃないかな、というところで、ちょっと農家の人達と話しをしていたところがあったので、何かそういうチャンスが、旧石狩市地にもあれば、募集っていうかですね、地元の企業さんだったり農家さんらと組んで、やっぱり地元に残って欲しいという思いがあって、厚田の前の協力隊の方とか、色々僕も話していますが、出来れば厚田に住んで欲しいなと思ったのですけれど、なかなか住むまでいかなかった。浜益の方も、活躍していたりとかしていますけど、何かこう、花川地区でも、花川地区というか、こっちの旧石狩地区でも出来れば嬉しいなっていうところは、あの、声があったので、そういうのも聞いて頂ければな、と思います。

【東委員】

はい、あの今厚田に自然をテーマに募集して来て頂いているんですよね、1人。で、その方が結構厚田の海岸で、どんな動植物がいるとか、厚田のキャンプ場で、どういう植物が、または昆虫がいるとか、そういうのを巡るツアーとかを去年1年間取り組んでいたんですけれど、親船というか、石狩川の突端の観光地にもなっている、あそこで協力隊員のように詳しいマスターみたいな方がいると、厚田の自然と石狩浜の自然って、ちょっと植生もちょっとだけだけど違ったりとかするので、その違いが分かる様な。で、2人が連携して、石狩の、もちろん浜益の自然ツアーみたいなものが出来る様な方とかが生まれると、もっと札幌から気軽に来れる自然に詳しい方として、そういう仕事にも就きやすいというか、農作業とはまた別の切り口なんですけれど、そういう感じで、旧石狩市域にも地域協力隊がいると凄いいんじゃないかな、と。親船とかだったら、ほぼ厚田みたいなイメージなんですけれど、でも石狩ですよ、あそこ。

【事務局：及川部長】

実際、環境市民部で自然に関係するものについては、旧石狩市域だけではなく、厚田・浜益の自然、多分その地域おこし協力隊の方ともですね、何らかの形で接点を持ってやっているんじゃないかな、と思いますね。市としても旧石狩市域も含めた厚田・浜益の自然というのを、インバウンド化も含めてPRしていきたいっていうことは、市の施策としてもありますので、それはこれからも力を入れてやっていくと思います。この連携の話は、担当へ伝えておきます。

【角川会長】

よろしいですか？

【東委員】

はい。

【角川会長】

それでは他、いかがでしょうか？上木さん、どうですか？

【上木委員】

特に無いです。

【角川会長】

よろしいですか？えっと、それでは、私からもですね、全体俯瞰しながら、所見めいたことを、話しをさせて頂きたいと思います。ブロック毎ですが、（１）のですね、市民協働の推進っていうことですが、なかなかこの推進が進まないっていう印象があるんですよね。それで毎年、毎回この行政改革の中でも市民協働ってもちろんトップに来ている訳ですが、これは毎回申し上げているので恐縮なんですけれども、まず、行政の方から積極的に、例えば市民団体なり青年団体に落とし込んでやると、こういうのはいかがですかってことで、積極的に広報活動しなとですね、なかなか動かないという、まあそういった性格のものがありますので、これは引き続きですね、私は広報活動という風と呼んでいるのですが、推進を進めて頂きたいと思います。また、ボトムアップという意味であればですね、町内会も含めて小さな単位でも結構なので、市民活動情報として「～やっているよ」、「こういうことやっているよ」ということがあれば、それを援助して頂きたいな、という風に思います。資金的なものだったり、人の部分であったり、或いは情報の部分であったりとか色々あると思うんですけれども、そういうことをしないとですね、なかなか動き出さない性格のものだな、という風に思っています。

「上から、下から」っていう表現が良いのか悪いのか分かりませんが、もう少し動かしてやらないと、なかなかきっかけをつくってあげないとですね、市民協働の方は進まないという風に、私は思っていますので、引き続き力を是非入れて頂きたいな、と思っています。

あと、（２）の ICT ですが、こちらは皆さん実感して頂いていると思うんですが、年々進化の度合いが速すぎて、追い付いていけないという性格のものだと思っています。例えば身近な例でいきますと、例えばパソコン１つ取っても、それまでは５年、或いはそれ以上使っていけるものだったのですが、今は、もう３年経ったら非常に古いですよ。下手すれば２年くらいで次々入れ替えていかないと、追い付いていかな

い、と、情報処理のスピードに追い付いていかないっていう部分もありますので、本当に3年前で最新だったことが、今はもうちょっと取り残されているみたいな、そういうところもありますので、とにかくスピード感を持って取り組まないと、追い付きませんよっていうことなんですよね。ですから、ここでいう5年計画っていうのも、もう5年経ったら完全に古くなってしまうので、とにかく情報を、次々最新の情報を仕入れていく。それに対して、検討、そして実行までのスピードを上げていかないとならない、と。これまでの半分というのは言い過ぎですけど、3分の2ぐらいのスピード感を持っていかないと駄目だな、と思っております。また、当然最新の情報を入れていくということも大事なことですな。

あと、(3)ですね、時代変化に対応した事務事業の最適化、業務形態の変革というのも、これも同じなんですよね、これも時代変化が激し過ぎるので、のんびりしてられないな、というところ。いつも例に出して恐縮なんですけれど、この3の最初にいつも出てくるので、目についてしまうのですけれど、公共工事の総合評価ってこんなに時間掛からないですよ。本当に2年くらいで盛り込めば良いだけの話なので、ここまで検証する必要、5年もかけて検証したりする必要は全然無いですよ。そういう風にスピード感を持ってやるのが大事だな、と思います。

あと、(4)なんですけれど、人材育成と働きやすい環境、まあ働き方改革にも関わる部分なんですけれども、先日、商工会議所の平成31年度の総会に向けての資料をちょっと見ていた時に、人材不足という言葉が3回も4回も出てくる訳ですよ。で、先程運上さんの話しの中にも。2回ぐらい出ていましたね。この人材不足というのは、本当に深刻な問題でして、特に民間の人材不足というのは死活問題ですね。これ、行政の方でも例外では無いという風に思っております。で、「いない、いない」って言うだけじゃ進まないの、具体的な取組みをどんどん進めていかなければですね、本当に5年、10年とは言わないですね、もう5年後には、更に今より深刻な状態になっているということは予想されますので、まずは情報を発信していく、或いは受け取っていく、それを流していくっていうことを推進しなければならないですし、こちらもスピード感を持った対応をしないと、本当に取り残されてしまうな、という印象があります。あと、人事評価に関わる部分もありますけれど、実態に即した評価をしてあげることが必要で、実態調査をまずしてですね、人事評価が果たして的確なのかということを調べながら評価してやらないと、これは人材育成に結び付かないな、と私は常々思っております。

で、最後(5)の健全な財政基盤の構築というのはですね、本当に一頃に比べれば、非常に良くなっているかな、ちょっと主観も入っていますが、そういう印象ですね。かつては行革懇話会のテーマとして、大きなテーマの1つだった訳です。今も勿論大きなテーマではあるのですけれど、それ以上に、例えば人材不足の問題だとか、そっちが取り上げられて、ついつい後々に考えがちなんですけれど、それだけ改善されてき

ているな、という印象があります。やっぱりこの辺も市長を始めとして、皆さん方のやっぱり努力の成果だな、という風に、これは評価したいな、と思っております。すいません、ちょっと俯瞰な内容で申し訳なかったのですが、私からの所見ということでお話をさせて頂きました。

さあ、いかがでしょうか。今までのご意見の中では、文書の変更だとか、修正とか追加、あるいは持ち帰りの部分は無かったかな、という風に思いますけれども。よろしいですか？

【全会一致】

【角川会長】

それでは、基本的にはこの原案通りということで承認させて頂きたいな、と思っております。それでは、審議はこれで終了したいと思います。平成30年度はこれで終了ということですが、言い残しのある方いらっしゃいますか？大丈夫ですか？

はい。それでは、平成30年度の石狩市行政改革懇話会を終了したいと思います。短かったですけど。ありがとうございました。

(閉会)

平成31年4月26日 議事録確定

石狩市行政改革懇話会 会長 角 川 幸 治